



学校便り

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> Eメール kanai-es@sado.ed.jp
佐渡市立金井小学校 平成29年6月9日 第3号

ピンチをチャンスにした運動会 ～ 運動会を通して成長した子どもたち ～

校長 羽二生 裕

1年生の育てているアサガオが気持ちよさそうに伸びてきています。学校ではプール清掃が終わり、いよいよ夏に向けた教育活動が始まりました。



先日、雲一つない青空の下、金井小大運動会が行われました。今年の運動会はインフルエンザの流行があり、なかなか思うような準備や練習ができず、連休明けの5月8日から、本格的な練習が始まりました。私自身もこの2週間で、5月20日の運動会が本当に出来るのか不安でした。特に最高学年の6年生の学級担任や体育主任は、一層の不安を感じた毎日の連続であったと思います。

子どもたちを支える先生方の真剣な眼差しを日々、私自身が感じていました。運動会当日、6年生を送り出す松田学年主任は「一生に一度しかない最高学年の運動会。競技も応援も全力でやろう！これまでの思いを全てグラウンドに置いてこよう！！失敗も楽しもう！！最高の思い出をつくろう！！！！」と言って、6年生の子どもたちをグラウンドに送り出しました。力強い本当に心のこもった言葉でした。6年生の子どもたちは、その言葉に励まされ応援や競技、そして自分たちの係の仕事などで見事にその期待に応えました。

運動会ですから、競技や応援には必ず順位や勝ち負けは付きます。その時の嬉しさや悔しさは、練習を頑張りぬき真剣に取り組んだ心から湧き出てくるものだと思います。私は、子どもたちが学校行事や教育活動の中で真剣に取り組む姿や友達と一緒にやりぬく心こそが大事であり、それらの思い出がその後の子どもの成長に繋がると信じています。6年生の女の子が次のような思い出を書いていました。それを読んだ時、私は涙が出るくらい嬉しかったです。

私は、運動会を通して分かったことが2つあります。
一つ目は、喜ぶことです。私は、100メートルで絶対勝てない人達と組になってしまいました。どうせ負けるくらいならと、逆に燃えていたので楽しみにしていました。しかし、いざ走ってみると、やっぱりゴールした時には4位でした。嬉しさと悔しさが戦い、悔しさの方が勝ってしまい泣いてしまいました。でも、泣いてばかりじゃなくて、ビリでも一位でも「喜ぶ」ことが大切だと改めて分かりました。
二つ目は、達成感です。私は用具係でした。係をやりつつも、応援も頑張りました。赤組が勝つために、結果は白組に勝たれてしまいましたが、「達成感」を感じることができました。

最高学年としての最後の運動会であったからこそ、心に感じるものがあったのでしょうか。私は、子どもの心の成長を感じました。運動会という大きな学校行事を通して、子どもたちは多くのことを心と体で学び取りました。最後まで、子どもたちに大きな声援や拍手をいただきました保護者の皆様や地域の皆様から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

